喜怒哀楽

詠み人応援マガジン

詩歌俳柳壇ニュース

6
June
Vol.62

＊「喜怒哀楽」は、文芸を楽しむ方々の活力の源を目指し㈱ミューズ・コーポレーション喜怒哀楽書房が隔月発行している情報誌です。

温古知新⑯ ～源氏物語7～ 1
笑顔礼讃西東
とねりこジュニア句会様（新潟県・加茂市）2～3
とうきょうと川柳会様（千葉県・松戸市）3～4
片桐正雄様（千葉県・千葉市）5
投稿作品 6～10
心に残った作品 10
詠み人スクランブル（防災グッズとして備えているものはなんですか？）11～13
新潟ぶらり／新潟県政記念館 13
お客様の『リレーエッセイ』村上澄子様 14
ニュースあれこれ 15
詠み人の『リレーエッセイ』歌人佐藤弓生様 16

温古知新⑯「源氏物語」7

最愛の紫上の発病、そして柏木の死。急展開を見せる物語ですが……。

夏、女三宮の持仏の開眼供養が営まれました。秋には、女三宮の部屋の前庭を野の風情に造りかえて鈴虫（現在のマツムシ）などの秋の虫を放します。八月の十五夜の頃、源氏が女三宮のところで琴を爪弾いていると、蛍兵部卿宮や夕霧がやって来て、そのまま管弦の宴となりました。そこへ冷泉院から誘いがあり、馳せ参じた源氏ら一同は明け方まで詩歌管弦に興を尽くします。

柏木の未亡人落葉宮に恋心を募らせていた夕霧は、八月の中ごろに一条御息所の見舞いを口実に小野を訪れますが、思いはかなわぬままに夜は明けてしまいました。二人の仲を心配していた御息所は、心労のあまり急死。その後、夕霧は落葉宮と強引に逢瀬を遂げて既成事実を作ってしまいます。北の方の雲居雁は娘と幼い子数人を連れて実家の致仕大臣邸に帰ってしまったのでした。

紫上は大病以来しきりに出家を望みますが、源氏は許そうとしません。ある風の強い秋の夕暮れ、明石中宮が紫上の病床を訪れ、源氏も加わって歌を詠み交わします。その直後紫の上は容態を崩し、中宮に手を取られながら、露のように儚く明け方に息を引き取ったのでした。源氏は、栄華を極めるのと引き換えに、悲しい思いが絶えなかったと人生を振り返ります。出家しようとは思いますが、悲しみのあまりそれもできずにいました。

紫上が世を去り、また新しい年がめぐってきました。新春の光を見ても悲しさは改まらず、源氏は年賀の客にも会わずに引きこもっています。明石中宮は紫上が可愛がっていた三宮（匂宮）を源氏の慰めに残し宮中へ。春が深まるにつれ、春を愛した故人への思いは募ります。その後、年が明けたら出家を果たす考えの源氏は、身辺を整理しはじめます。紫上の手紙も、すべて破って燃やしてしまいました。晦日、追儺にはしゃぎまわる三宮を見るのもこれが最後と、源氏は最後の新年を迎えるための準備をしました。

この後、光源氏は出家して嵯峨に隠棲し、二、三年後に死去。またこの間に頭中将や髭黒も死去し、大きく世代交代が行われています。

そして、時代は、薫君と匂宮の時代へと移ります。

今回は、第三十七帖「鈴虫」から、第四十帖「幻」、そして、「雲隠」（本文なし）までのあらすじをご紹介いたしました。

最愛の紫上の死、そして、栄華を極めた光源氏の最期。また、周囲の人物の様々な恋模様を描いた第二部も、ここで終わりとなります。

次回、二人の貴公子を主人公とした第三部の始まりです。残された二人の貴公子の運命は……？

（古川久美子）

とねりこジュニア句会

主宰 織田亮太朗様

（新潟県・加茂市）

5月13日、「銀化」主宰 中原道夫さんが地元、新潟市で行っている「とねりこ句会」の若手の会「とねりこジュニア句会」にお邪魔しました。

▲様々な縁、導きによって俳句に巡り合ったと語る織田さん

主宰を務めるのは、千葉大学を卒業後、新潟に戻り就職した24歳の織田亮太朗さん。毎年8月、愛媛県松山市で行われる「俳句甲子園」への出場をめざし、月一回、高校生を中心に指導にあたっている。この「俳句甲子園」、作品の出来はもちろんのこと、句の鑑賞力が審査のポイント。その技量を磨くには、年齢が近く、中学から俳句に親しんできた織田さんが適任ということで、２０１０年12月「とねりこジュニア句会」が発足した。

この日は、中原道夫さんの出身校、県立巻高校文芸部1年生3人とＯＢ、そして母体である「とねりこ句会」から十見達也さんと寺尾亜真李さんがお世話係として参加。句会初参加という初々しい15歳もいて、短冊の書き方、選句・披講・講評にいたる句会の流れが丁寧に説明される。

本日は6月に行われる地方大会の兼題「葉桜」「梅雨」「蠅」を持ち寄ってスタート。さて、どのような展開となるのでしょうか。

主宰の挨拶に続き、句の清記では「鉛筆で書くの？ペン？」やら、上下逆さに記入してルビの欄が左に…など、それもご愛嬌！　文芸部では絵を描く派、小説派と様々で、俳句は門外漢、初心者の模様。選句の段になると「いいなと思った句を最初は何句でもチェックし、その中から絞っていくんだよ」、講評では「どうしてその句を採ったのか、どこに共感したのかを説明して」と、お世話係が声をかける。

以下、点数の入った句に対する高校生の講評―

もう何も恐れはしない葉桜や　神田

恐れないで、勇気を持ってやってみようという若さが感じられる。

織田…最後は「や」ではなく「よ」くらいでいい。

葉桜や黄色いぼうし並ぶ朝　宗村

葉桜の下を黄色い帽子をかぶって歩いている小学一年生。明るい感じと初々しさが伝わってきた。

星に願いを手を合わせてる夜の蠅　榎本

蠅にきれいなイメージをもったことはないが、この句を読んだらきれいなものに思えた／私も蠅は汚いと思っていたが「星に願いを」とあわせることで、きれいな印象になった。

織田…おもしろいが、字の使い過ぎで七・七・五の破調になっている。でもメルヘン調で、これはいい句だと思う。整理して「手をあわせ星に願いを夜の蠅」くらいにしては。

蠅ぴたり沈思黙考する素ぶり　野口

蠅がどこかに止まり、まるでものを考えているように見えた。つまり人格があるように見ているところがよかった。

黒鍵の蠅ひっそりと拍手せり　神田

織田…ピアノの黒鍵にいる蠅、確かに拍手しているように見えるかも。

葉桜の向こうにのぞく空の青　宗村

葉桜になったあとのことを、そのまま言った感じだが、情景がきれいに浮かんだ。

葉桜やモデルの仕事一段落　小林

葉桜の前、桜のときは人がいっぱい見に来てモデルとしての仕事を果たしたと思うが、終わったあとは誰もこなくなった。そこを一段落したと表現したところが、おもしろいと思った／満開の桜をモデルの仕事に例えたところがいいと思った

▲大人の「とねりこ句会」から十見さんと寺尾さんがお手伝い

十見…ぴたりと読んでるね～、みんな初心者とは思えない。

柏餅好みは硬派な漢（をとこ）なり　野口

餅はやわらかい。やわらかいものを食べていても硬派な人が好き、と詠んだところがおもしろい。

織田…中8なので、「柏餅好む硬派な漢なり」と、スッキリさせた方がいい。

ヘッドホン梅雨をかき消すお気に入り　宗村

お気に入りの曲をイヤホンではなくヘッドホンで聞いているところに、聞く気満々な感じが伝わってくる／梅雨は嫌だなーと思ったりするけど、ヘッドホンでガンガン聞いている間は全て忘れて音楽のことだけを考えられる。

葉桜の空掴もうと手をのばす　田代

桜が散って葉が茂りどんどん大きくなっていくところを、手をのばすとした。人で考えると、新しいものに挑戦しようかな、みたいに思えたのでいいと思った。

続いて点の入らなかった句について―

梅雨たのしバス待つ友を置き去りに

梅雨が楽しいのか、置き去りにしたことが楽しいのか、何が楽しいのかわからない。

織田…いいね、そういうふうに大会で言うと相手はぎょっとする。でも、置き去りにして楽しかったのなら、すごい悪い奴（笑）。

寺尾…これは、欠席投句の方で「梅雨のとき友達はバス停で待っているが、自分はお母さんの車に乗せてもらっているから楽しい、ということを言いたかった

が、どうしていいかわからなくなった」というコメントがついている。

織田…それを17文字でいうのは難しい。2つのことをいっぺんに言えない。要素を盛り込みすぎるとだめ。「梅雨たのし母の車の助手席に」ではどう？

葉桜の下でケーキを半分こ　織田

葉桜じゃなくてもいいような気がする…

十見…上5は何をもってきてもいいということ。

織田…おもしろいことを何かの下でしたかった。「ケーキ半分こ」なら、かわいくてみんな採ってくれるかと（笑）。

切り傷の滲み始めて梅雨来たる

切り傷が滲み始めて、それで梅雨来たる、だから嫌なことで関連させたのだとは思ったが、別ない方にした方がいいと思った。

織田…滲むが生々しくて、梅雨とつきすぎ。ネガティブ+ネガティブの表現。

▲若いって、それだけですばらしい！

主宰作品

マイナスに掛けるマイナス探す梅雨
単刀直入蠅のことどう思ふ
S極のN極を恋ふ春の山　亮太朗

★中学2年のとき「誰もやっていない面白いことで自分を磨き、表現したい」そんな衝動に駆りたてられたという織田さん。たまたま新聞で見た俳句の斬新さに「これだ！」と膝を叩き、以来10年にわたり研鑽を積んでいる。

中学3年の時の「この舞台筋書きはなし夕月夜」や「散るものを散らす運命（さだめ）の木枯しよ」という句を、「大人顔負けの句」と中原道夫さんに採っていただいたご縁で、上京してからは「銀化」の句会に出席。俳句もお酒の腕もあげている現在進行形の注目株。若い人同士が自分の種を、周りの影響でどんな色に花開かせていくのか―。数年後には、皆さんのお名前を様々な紙上でお見かけするかもしれませんね。まずは俳句甲子園目指してファイト！　（木戸敦子）

送り梅雨いざ行け俳句甲子園　十見

▲午後から行われる「とねりこ」句会のため来新された中原先生の指導を受ける面々

とうきょうと川柳会

代表　松尾仙影（せんえい）様（千葉県・松戸市）

5月17日、東京都庁川柳部のOBを主体とする川柳愛好者で構成する「とうきょうと川柳会」にお邪魔しました。

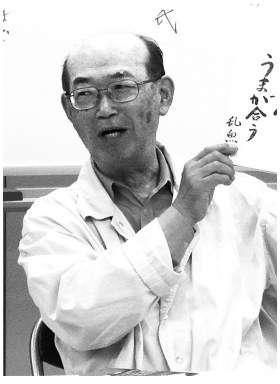
18時から約2時間の句会の前半は、毎回多彩なゲストを招いての勉強会。4月は川柳の安藤波瑠さん、次回6月は俳句の佐々木いつきさん、7月は川柳の尾藤一泉さんを予定。お話を聞いたり、実演・実作したりと、川柳以外にも様々な分野のことを見聞きし研鑽を積んでいる。

そして、5月のゲストは教育庁OBの松谷茂さん。指笛・草笛・口笛音楽家として、海外での演奏、テレビへの出演等も数多く、現在はNHK学園の講師としてご活躍。まずは椎の葉で「埴生の宿」を演奏くださる。それでは実際に皆さんも…！ということで、手始めに指笛より音が出やすい草笛の練習から。

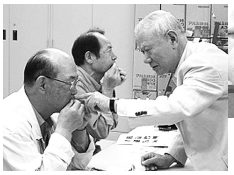
だが、そこで手渡されたのは葉っぱならぬアリストロメリアの花。「やわらかく、真ん中に一本葉脈がはっきり通っているものが音を出しやすい」ということで、松谷さんが試行錯誤の末、見つけたのがこの花びら。「私の言う通りにやれば、必ず音は出ます」という心強い言葉に後押しされ、程なくして少しずつ「プープー」と音が出始める。出る人、出ない人とも「場合によっては、川柳から転向しようかな」「天賦の才能がある！」「今にも死にそうな音だ」「入れ歯じゃだめかな…」などと、おっしゃることが一つひとつ笑える。

続いての指笛はなかなかに難しく、音が出た人はわずか。その後、松谷さんと指笛・草笛との出会いや、退職後それらを活かした活動の様子をお聞きし、「荒城の月」「朧月夜」「椰子の実」「目ン無い千鳥」「波浮の港」とマイ

▲毎月の会報誌「川柳都庁」



▲川柳の他にソフトボールの審判員や写真にと大忙しの代表松尾さん



▲草笛は人間と植物のコラボレーションと語る松谷さん

クを使わず、力強い演奏でしめくくる。

続いて、各川柳大会で優秀な成績を納めた方の表彰と一言、代表の松尾さんより、一昨年4月に亡くなられた今川乱魚さんの代表句「人肌の酒ととことんうまが合う」や「いい貧乏させて貰った父と母」を採り上げ、その人となりを偲ぶお話があった。

そして、いよいよ、5月の宿題「そわそわ」と「督促」の選の結果へと―。

「そわそわ」松尾仙影　選

では、まずどこが物足りなかったかを見ていきます―。

美人に囲まれ腰が落ち着かず

普通の句。隆志さんくらいになればここから一工夫が必要。

隠しても顔に出ている初デート

デートの句も多かった。悪くはないが、おもしろみがない。

初恋の彼女は来るかクラス会

これもよくある、ありふれた句。

式終わり隣の席が気にかかる

情景が見えない。

春の風心うきうきそわそわと

「うきうき」と「そわそわ」の両方を言われると…。「そわそわ」で勝負してほしい。

一番の窓口にある夢を買う

「夢を買う」で宝くじだと思ったが、なんの窓口かわからないしパンチが弱い。

そわそわも落胆だけの披講の場

（一同　笑）原則、舞台裏は出さないというのが一応の約束事。悪いわけではない。

〈佳作〉

これ以上言えない秘密胸にもち　高明

父の日は一人そわそわ皆忘れ　香代子

頻尿へサービスエリアはやく来い　富清

試験前親はそわそわ子はのんき　寛良

役員は次の次だとささやかれ　旭

採血を始めますよが長すぎる　きんぎょ

苦しかったら、このように会話を入れてみるのも手法の一つ。採られる確率が上がる!?

遠足の持ち物チェック何回目　明美

新婦待つたばこの煙も落ち着かず　香代子

義理チョコと分かっていても待っている　千代子

そわそわもどきどきもなき呆けの坂　昭雄

〈入選〉

嘘ばれた瞬間に目が泳ぎだす　弘美

夕暮れにママの足音待つ園児　隆志

これくらいの品とロマンがほしい。

初産の廊下に響く妻の声　順風

「そわそわ」の課題でお産の句が1割くらいあった。相討ちにならないよう、違う視点がほしい。

大物も判決前の被告席　誠作

僕の名を呼ぶかも知れぬノミネート　修

先ほどの会話と同じで、何かカタカナ語を用意して入れてみるのも得策。

運動会フォークダンスのチャンス待つ　宗善

〈三才〉

人　**チルドレン無罪再起訴落ちつかず　良夫**

地　**入学式名前呼ぶまであと少し　明美**

天　**トキの孵化母子手帳が待っている　和子**

軸吟　**スマフォンに現われる君ひとり占め　仙影**

「督促」横塚隆志　選

〈佳作〉

せかされてようやくできた今夜の句　香代子

（本人談）「できなかったー」（笑）

支払いへママが猫撫で声になる　富清

君次第などと答えを急かされる　修

貸した本譲ったことになっていた　明美

よくあること。

肩たたき念押してくる社の意向　仙影

催促をするたび書面荒くなる　順風

返さないと、最後は恐喝みたいになっちゃう。

親不幸母に始末をさせている　和子

こういうこともあるんだな、と。

納税の最後通牒来て納め　千代子

エンディングノートに急き立てられる今日明日　宣之

終末の句が意外に多かった。

期が熟すまで待てないと急く寿命　孝子

同じような句。死神からの誘い。

サラ金の返済迫るど迫力　栄

督促そのもの。

〈入選〉

春本と若さ催促しても戻らない　順風

男はわかる！（笑）

まだなのといらぬ他人のおせっかい　弘美

ご無沙汰で妻がつめ寄るときもある　寛良

催促なのか督促なのか。

督促がないのに送るラブレター　孝子

これに対する答えのような句が次…

督促をしても来ませんラブレター　富清

（笑）

〈三才〉

人　**優秀なあなたの子供生みたいな　誠作**

地　**返してと言うタイミングが難しい　明美**

天　**督促の初めは緩い球で来る　修**

軸吟　**督促状並び始めた倦怠期　隆志**

★20時きっちりに句会が終わると、いつもの如く近くのお蕎麦屋さんで懇親会。現役も入り混じり、川柳談義に近況や趣味の話にと花が咲く。21時の閉店だから、懇親会もきっちり1時間。句会の合間には、話を聞きながらなおも違う句を作りノートに書きつける方もいらして、忙しい皆さん、有効に時間を使っていらっしゃるのです。取材の依頼から、その後のやりとりまで、あまりのスピード感にびっくり。人生は長く、そして短い。余生はなく、今がまさに現役！で人生を謳歌されている都庁OBの皆さんでした。（木戸敦子）

片桐正雄様
「短歌集 百歌繚乱」
（千葉県・千葉市）

本年5月、ご自身7冊目となる「短歌集 百歌繚乱」を出版された片桐正雄さんにお話をお聞きしました。

Q永年短歌を詠まれてきたのですか？

始めたのは還暦の年だから、かれこれ16年ほど。「小人閑居して不善を為す」中国の史書『大学』にある言葉のとおり、退職後、閑になり、何もしないでいるとダメになると思い、頭と体の鍛錬のために俳句や短歌、ウォーキングを始めた。まぁ、そのいずれもお金がかからないからね（笑）。だから私にとってこれらは趣味ではなく、心身のバランスを保ち、少しでも老いを遅らせるための手段。

Q1冊に1800首、すごい歌の数ですね

始めるまでは短歌や俳句に興味も関心もなく、創作の経験もまったくなかった。師もなく所属する会もなかったため、暗中模索のうちに入門書を買い漁り、図書館で万葉集や古今集、芭蕉、一茶、子規、虚子、与謝野晶子、石川啄木、斎藤茂吉、寺山修司…といった全集を借りて勉強した。でも、いくらそれらを読んでも、一つとして作品は生まれてこず、結局は自分で見て考え、経験したことを自分の感覚と言葉で表現するしかないということに思い至った。

▲一つ一つ実直に真摯にお答えくださる片桐さん

Qそれからは順調に？

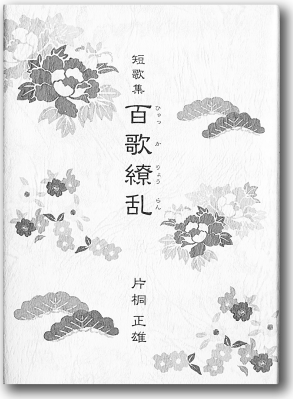
いえいえ、とんでもない。その昔、百姓と雪がいやで、中学を卒業すると親の反対を押し切って憧れの東京に出てきた。新潟は雪深い塩沢から。ひとり都会の砂漠で孤独と貧しさに耐え、工員、店員、社員、公務員…と、あらゆる職業に就いた。生きていくことの切なさと、人の情けに涙しながら、ただただ生きること、働くことに追われ、勉強や読書をする時間もなく、ましてや遊びや趣味などの余裕は皆無。まさに浅学非才、今でも自分の想いをいかに表現するかに頭を悩ませ、指を折り、言葉を探し、悪戦苦闘している。

Qご自分で切り拓いてこられたのですね

夜学に通っていたが、疲れ果てて勉強どころではなかった。ろくに勉強もしていない人間が本を出版するなど、思いもよらないことで自分自身が驚いている。だから自分の「思想」や半生を短歌や俳句に託し、活字となった「自分の本」を生まれて初めて手にした時は、夢のようだった。と同時に、子や孫に何物にも替え難い遺産を残せたような満足感もあった。しかし妻子ともに関心なし（笑）。

Qこれだけの量の作品をつくり、本にされる原動力は何ですか

本を出す目的は書きためた原稿を整理して記録し、保存すること。古稀を迎えた頃から、余命を考え「生きてきた証」として、短歌や俳句を句集・歌集としてまとめておきたいと思うようになった。本にして親戚や友人知人に配布することは面映く、恥ずかしい思いもあったが、ミニ自分史であり、回顧録でもあり、自虐的懺悔録でもあると思っている。記録し、まとめることは、古い写真に感動を紡ぎつつ、整理して綴る思いにも似ていると感じる。「滅ぶとも句歌集の中に我は生きなむ」、そう信じながら、これからも日々、頭を悩ませながら作品創作に努めていきたい。



▲他の歌集も「唯我独詠」「臥龍啖呵」などいつもひねりの効いたタイトル！

Q時には面倒だなーと思うことは？

毎日の短歌もウォーキングも掃除も、続けることは面倒だし四苦八苦。年がら年じゅうイヤだと思っている（笑）。でも、せっかく親からもらった心身だし、貧しい百姓の血が流れ刷り込まれているからか、本当はボーッとしていたいのに、やはり何かをしなければと思ってしまう。

Qこれからは？

老境に入ってようやく自身を振り返る余裕ができた。紆余曲折の半生を憶いつつ、今心静かに短歌や俳句に親しめるようになった日々に感謝している。そして、いつか今までの集大成を、全集としてまとめたいと夢見ている。

★様々な職を経ながら、東京都の職員となり定年まで勤め上げた片桐さん。公務員になったからには上を目指そうと、通勤電車の中、帰宅してから、寸暇を惜しんで勉強を続け、難関の都の管理職試験に合格したという努力の人。面目躍如たる、越後人の粘り強さ！写真ではわからず残念だが、弓のようにしなやかな体躯と身のこなしは、とても76歳と思えない。「鍛える」の本来の意味「しっかりとした良質なものにする」ことを、まさに地で生きていらっしゃると感じた。

（木戸敦子）

投稿作品

※誌面の都合上、投稿作品の掲載は先着300名様までとさせていただきます。何卒ご了承ください。

短歌

1 ただ青き空に一筋浮く雲の東にむけてゆく龍に似る　佐々木都（長野県）

2 震災の瓦礫引き受くる市に対し被災地の少年謝辞送るとは　今井忠一（東京都）

3 二円三円の大金（おおかね）日本の国家を動かしている一円玉が落ちていれば拾う　梅澤鳳舞（埼玉県）

4 もの言はぬ原発事故の害あまた同心円の街も山河も　大竹憲弥（新潟県）

5 霧深く叡山（やま）の稜線不確かに送電線塔はるかに遠し　藤原昭三（滋賀県）

6 来る度に孫美しく背丈伸びわが身縮みて羨しかりき　髙須孝（愛知県）

7 遊歩道鳥の鳴き声聞きながら風に吹かれて桜らヒラヒラ　浅沼正子（神奈川県）

8 趣味なれど歌詠む者の義務として国難のうたよみてのこさむ　黒澤正行（福島県）

9 ぴんぴんと郷土に生きん春四月集う有志のウォーキングなり　山本敏順（長野県）

10 ガレキさえ受け取り出来ず押しつけて何が絆か天もあきれる　齋藤忠弘（千葉県）

11 家建てぬ七十坪の隣接地わが生き甲斐の菜園となる　野木宗信（奈良県）

12 三日ほどはなやぎくれて桜散り心機一転まだ頑張れる　小笠原紗恵子（神奈川県）

13 子どもの日買うてもらひし携帯の声なき声に父母偲びたり　阿部澄江（宮城県）

14 ふるえつつ地へ打たれゆく杭みえて事務執る窓を終日ならす　北岡晃（兵庫県）

15 暖房のまわりし大型バスの席ガイド話せば旅人となる　土屋喜雄（山梨県）

16 サイエンスだれのためなりさなきだに御用学者のいま目に余る　篠原三郎（静岡県）

17 寒止まり穏やか日差し街映し隠れし花々笑みて咲き染む　濵田深雪（新潟県）

18 葉ざくらも色良く眺む人のありひと雨もらい初夏にむかいて　佐伯セツ子（香川県）

19 白き朝冷たい空気を吸いこみて今日のつとめを我つとむるなり　若月理依子（新潟県）

20 空の青背負いて歩く秩父路は幼な心地のワンダーランド　佐藤加代子（東京都）

21 一人居の活力つける珈琲の午後のタイムに匙の鳴る音　図子利明（兵庫県）

22 恐ろしや取巻く無数の原発部品「千丈の堤も蟻の一穴」　西山悌三郎（高知県）

23 臣民を社員に朕を社長とし解せば勅語今に通じる　濵田イサオ（福岡県）

24 若くして突然逝きし甥の死に別れおしむか家族の合掌　田中迪子（東京都）

25 荷物より安き運賃扱いは人並みなのか格安空輸　音喜多千津子（埼玉県）

26 星空がもったいないほど綺麗です裏六甲に車椅子押され 佐伯はる（奈良県）

27 しあわせと云う名の村に夫と来て共共喜寿を迎へたる朝　今井温子（奈良県）

28 桜愛で父との花見去年想い欠ける者なく来春もまた　大橋絵代（千葉県）

29 「先生（センセイ）」と我に近づき道を聞く子供の北京語少しはわかる　増田信雄（埼玉県）

30 十代の下宿の夜を想うなり夜明けのスキャットの曲また流れ　桑原謙一（群馬県）

31 傾むけるグラスのワインは血の色にエーゲの海より青き眼の女（ひと）　寒川靖子（香川県）

32 晩年にプラ（＋）マイ（－）ゼロの夫婦道五風十雨五ヶ別府に住む　濱崎祥子（鹿児島県）

33 水仙に顔近づけて君は言ふよい薫りねと優しき言葉　小暮昭司（群馬県）

34 腰痛や膝頭（ヒザカブ）痛きこの日頃鍬を持ちつつ年齢と悟りぬ　田中豊恵（新潟県）

35 生れし日は愛たっぷりの名のはずが指名手配の張り紙に雨　後藤美佐子（長崎県）

36 一日に何度時計を見るだろう人かきわけて老いて行くなり　吉野成行（愛知県）

37 チューリップ白赤えんじピンクまで順次に咲くや四五日おきに　佐野澄江（山梨県）

38 冬囲いはずせば背伸びして待てる蘭の花芽の青き三寸　山内寿子（京都府）

39 梅、桜、若葉まぶしく紫陽花に自然は驚き老次楽し　辻忠城（東京都）

40 衛星を偽り揚げしミサイルはあはれな形で雲に消えたり　椎忠夫（神奈川県）

41 高校生大学生等に囲まれてわが半生のたちまちに過ぐ　木暮珣子（群馬県）

42 原発はこのまま永遠に閉鎖せよ人命一に国民よ立て　佐藤古城（埼玉県）

川柳

43 捨てられぬ杜の都も母の手も　楠瀬美香（高知県）

44 稲笑う実無き奴らの頭下げ　磯山陽吉（東京都）

45 初恋の魔女はいまでは木偶の妻　松田重信（埼玉県）

46 木の上に人がいたから助かった　久保和友（滋賀県）

47 指揮棒がカイザル髭のように跳ね　丸山芳夫（東京都）

48 震災をしずめる神がほしい国　工藤昌見（山形県）

49 母背負いあまりの軽さ足もつれ　原田英一（千葉県）

50 イヤ名句残る桜も散る桜　南喜美子（千葉県）

51 もう傘寿まだまだ捨てぬアンビシャス　藤沢健二（千葉県）

52 テープカット遠くで見てるヘルメット　石原岳（群馬県）

53 OLはオールドレディの略ぢゃない　稲垣恵子（埼玉県）

54 中選挙戻せ日本民の為　大川聡（新潟県）

55 晩年の望みは現状維持となり　守屋高雄（岩手県）

56 底辺に住んでも誕生日毎に年令
大江秋月（兵庫県）
57 ミスキャストだったか個性強すぎる
潮田春雄（千葉県）
58 制服も春と一緒に歩いてる
鈴木義雄（福島県）
59 世の中は桜が咲いて金がちる
安木沢修風（新潟県）
60 枝切られ鳥巣を捨て糞落とし
安達一葉（北海道）
61 アバウトのようでバッチリ妻の匙
竹村穏夫（大阪府）
62 酔うほどに自慢話しを盛りあげる
諸橋文男（新潟県）
63 人類の未来を託す乳母車
岡本恵（茨城県）
64 風鈴は灼熱の過去語らない
藤沢今日民（千葉県）
65 いい笑顔笑えば白い歯がきれい
高井逸代（岡山県）
66 お迎えに飛びついてくるありったけ
小山恵美子（大阪府）
67 中也暗唱その後ワニ目の残虐詩
安部哲（新潟県）
68 弱い者同志の愚痴で気が晴れる
田澤宏（新潟県）
69 人生の一歩赤子の大あくび
小須田五十子（東京都）
70 意気込みに負けてしまった顔のしわ
近藤はつみ（福岡県）
71 ふる里の土着け届く根野菜
三輪幸子（滋賀県）
72 爆破して証拠湮滅衛星を
村岡盛英（群馬県）
73 一人減り元気でいよう姉妹会
水永ミツコ（島根県）
74 全身で喜怒哀楽を孫演じ
橋本世紀男（東京都）

75 海軍を志願母なら止めたかも
奈倉楽甫（愛知県）
76 山河を越えて卒寿の花の宴
大岩歌子（岡山県）
77 年かさねすくすく育つ二段腹
山崎一嘉（愛媛県）
78 ヘボ将棋待ったの数を決めてから
鈴木青古（茨城県）
79 わが心浄土と地獄併せ持ち
増島淳隆（東京都）
80 こいのぼり泳ぐテラスが狭すぎる
藤井碩子（山口県）
81 お財布の鈴がなります元気良く
松田義登（福岡県）
82 満開の生気を桜から貰う
安田翔光（香川県）
83 満一年夕陽に映える瓦礫（がれき）かな
羽田桐柳（群馬県）
84 飽食の海で思考の芽が溺死
鏡たか子（山形県）
85 しのぶ恋晴れて夫婦に子も連れて
岩崎令子（大阪府）
86 初心者は標語読んでも五・七・五
中林恵子（大阪府）
87 十字架のすべて赦せり春の雪
長尾俊彦（香川県）
88 居心地が良くて座椅子でつい昼寝
中嶋秀次郎（埼玉県）
89 やっと春なのに短かいそして春
石山幸枝（新潟県）
90 今年こそ朱鷺もときめく春の風
鈴木章（新潟県）

俳句

91 尾根筋に腹の斑見せて時鳥
渡辺茫子（千葉県）
92 マフラーをとり焼香の列に入る
中村慶子（滋賀県）

93 しゃぼん玉消えて淋しさ生れけり
関根千恵（埼玉県）
94 山桜鬼棲む山の匂ひなる
米山光郎（山梨県）
95 寺の縁膝に落ち来る初音哉
安部世衣子（埼玉県）
96 セシウムやかたかご花を震わして
沢田稲花（山形県）
97 薫風の強弱に舞ふ柳枝かな
須澤重雄（長野県）
98 ネズミたち怒濤をなして春星へ
白戸麻奈（東京都）
99 喜寿祝う猫に小判のごみ和え
大塚徳子（埼玉県）
100 庭隅に福寿花列し春を告げ
小林敏宏（長野県）
101 守らるる老々介護ボケの花
柳澤京子（宮城県）
102 春嵐過ぎしあとの空の青
小形さだ（東京都）
103 青柳の相ふれ舟の出で行けり
環順子（東京都）
104 入学児行手に希望一二三
神作洸江（埼玉県）
105 妻の袖引いて次待つ初音かな
星野三興（新潟県）
106 春愁ふボタン一つの掛け違い
長峰正晴（千葉県）
107 チューリップ手をあげ園児横断す
佐瀬チエ子（神奈川県）
108 柿若葉不換紙幣となる定め
土谷敏雄（秋田県）
109 廃校の校歌を歌ふ卒業式
山崎吉晴（群馬県）
110 薄氷の子等笑ひ声靴の音
福田和子（東京都）
111 すみれ草小さな幸を点しつ、
道給一恵（埼玉県）

112 ウェディングドレスの似合ふ小米花
緑川禎男（埼玉県）
113 散り敷きてなほ花惜しむ心かな
井原毬子（東京都）
114 スーチーに軍の国とて春きざす
高橋トミ子（山形県）
115 初雲雀アウンサンスーチー勝つたぞよ
小島岳青（新潟県）
116 囀が喜ぶ樹々に抱かれし
水落重弐（新潟県）
117 光背に葉桜の音水のおと
二瓶邦枝（埼玉県）
118 兼題に悩み蛙のめかり時
田野倉訓郎（東京都）
119 花筏せせらぎ塀を越えにけり
小井寒九郎（三重県）
120 若人の早稲田の杜の青嵐
阿部至（埼玉県）
121 揃い踏み梅桃桜北信濃
西條公雄（埼玉県）
122 お逮夜の法話途切れし遠蛙
大場きよし（宮城県）
123 物忘れしながら生きて花は葉に
阿部徳夫（宮城県）
124 春の灯やつのる帰心の旅支度
古谷力（東京都）
125 花吹雪墓石に語り水注ぐ
堅田秀子（東京都）
126 ふと凶に触れてしまったさくらんぼ
椋本望生（大阪府）
127 前傾の長い黙祷水仙花
居原田連星（大阪府）
128 今日を生き今日の桜を愛づるかな
佐野和彦（静岡県）
129 片栗の花の群生夢運ぶ
竹本芙美子（新潟県）
130 スカイツリーこちらは花の鳰の海
炭﨑博（滋賀県）

投稿作品

131 春草は猫のベッドや尾をふれり
武市愛子（大阪府）

132 「あっ」鳴いた初音うれしき散歩路
佐野しづ子（愛知県）

133 母の日や母から母へ廻す紅
早矢仕邦夫（愛知県）

134 定年く未完のままの竹の春
美濃部紘三（新潟県）

135 病んでいる眼に新緑が痛い
紺谷睡花（東京都）

136 藻塩集みバニラ空には三つ星も
服部秀次（東京都）

137 駅を出て歩いて百歩雪山家
菊池シュン（青森県）

138 ドーナツの穴の向かうの春愁
遠藤和彦（埼玉県）

139 行く春や共に行きたや故郷
河合ヤスエ（大阪府）

140 産まれ逝く即ち独り涅槃像
加用章勝（千葉県）

141 手を上げて溺れてしまふ花吹雪
北村純一（神奈川県）

142 この国を善根に生き甘茶仏
三津木俊幸（千葉県）

143 人の世の卒寿惜しまれ皐月富士
杉原明子（静岡県）

144 うきことを流せる齢や山笑う
山田幸代（兵庫県）

145 昭和の日律義な人のゐた時世
川崎洋吉（福岡県）

146 義清（のりきよ）と桜を想ふ今年かな
岩村昇（神奈川県）

147 園に沿ふ小径菜の花蝶と化す
中西秀雄（東京都）

148 誘ふて泉下の君と花の宴
堀田寿美子（北海道）

149 傘寿にて今が青春馬酔木咲く
津田忠彦（岡山県）

150 朝刊を配る足音明易し
清水喜代子（岡山県）

151 袋掛け緑の風も少し入れ
田中昶（鳥取県）

152 五月宙（そら）平和をうたふスカイツリー
内河邦久（東京都）

153 曽孫生る梅一輪の光かな
小西四郎（東京都）

154 来し方を問わず語らず春疾風
副島加代子（宮城県）

155 天泣の空なお高く雁帰る
田島星景子（宮城県）

156 得意満面プードルの花衣
川口襄（埼玉県）

157 復興のその先見えず鳥帰る
井上静夫（栃木県）

158 切り口の冷たき薯を植えにけり
今井岩夫（千葉県）

159 手術終へ白木蓮の輝きぬ
宇田川正雄（埼玉県）

160 快よき寝ざめとなりし花疲れ
柚山美峯（東京都）

161 さざ波に落花を乗せてダム静か
大橋恒次（新潟県）

162 姥抱く曽孫の瞳桜かな
神一男（静岡県）

163 車椅子の人も集いて花見会
中森儀雄（三重県）

164 音に聞く遊行柳か今芽ぶく
乾久子（滋賀県）

165 花万朶散華を待たず伴（とも）逝きぬ
佐藤茂三郎（千葉県）

166 カップルの女の小声万愚節
川崎貴行（熊本県）

167 みどり児の百面相や春嵐
中嶋清子（佐賀県）

168 狭庭の彩り競ふ水仙花
岡村和郎（静岡県）

169 頂に行者像座す花の山
竹村和成（奈良県）

170 生涯の一句未だ無し花は葉に
堀木和子（大阪府）

171 水ぬるむ鴨の親子の逆立ち芸
針生清（千葉県）

172 風の日はわれも乗りたや花筏
萬濃その子（神奈川県）

173 ひとつまみ土を抱かせて菊根分
前川和市（兵庫県）

174 春風やまわるく聞こゆ鳶の声
西村幸子（滋賀県）

175 入梅や松葉杖つく院の中
油谷郷史（兵庫県）

176 弓弦の技冴えきらず桃の花
浦橋渇雪（兵庫県）

177 身の芯に支への欲しき花の冷え
青木ケン子（埼玉県）

178 破れ蓮や日輪水にこぼれけり
百花清（埼玉県）

179 花見酒お隣りさんも踊り出す
布目雅之（埼玉県）

180 本音など消されてしまう花吹雪
棚橋麗未（東京都）

181 行く春のまあ何といふ早さかな
福岡悟（東京都）

182 逝く人の送り太鼓や花の下
清まさじ（静岡県）

183 風船や人の出逢いも風まかせ
野村牟人（東京都）

184 うららかな春かき寄せて土いじり
鈴木みえ（長野県）

185 逝く春やほほえむ遺影うす化粧
坪田勝秀（鹿児島県）

186 雨降りてスイセンの花咲きにけり
金子正宏（茨城県）

187 清貧や白山吹の凛として
松尾康代（東京都）

188 鳥雲に宇治の河原にたたずめば
村上千代（大阪府）

189 城仰ぎしばし見つめる咲く桜
中村和弘（愛知県）

190 春愁の痞へは晴れず震災禍
山東爺（北海道）

191 後添えを娶りし友の白椿
長野光康（神奈川県）

192 受難節ガウディの塔彫り続く
冨樫和子（山形県）

193 春色の服に戻せし昔あり
忍正志（兵庫県）

194 持ち寄りの料理を囲む花の宴
須田洋子（埼玉県）

195 多喜二忌や熱き口調の亡父の過去
栗原黎（群馬県）

196 桜貝恋する彩と妹ひろふ
堀井酔人（茨城県）

197 竜天に登る白波旅まくら
山本直子（大阪府）

198 石舞台馬子も目覚む青嵐
山本善輔（兵庫県）

199 母の忌や桜吹雪のただなかに
岩橋千代子（北海道）

200 木の芽どき絡み衣類の数知れず
酒井多ま恵（岩手県）

201 往く春や病妻の座せし椅子重し
関忠恕（静岡県）

202 花かげの出逢ひの糸のくれなゐに
橋本良子（埼玉県）

203 緋鯉浮く朱の水紋や水温む
青木日出男（群馬県）

204 潮の香や跳んではかなき鯉五郎
上村元義（神奈川県）

205 てふてふのはなるるはなびらゆれもせで
仁藤ひろじ（埼玉県）

206 花満開屹立ビルを前方に
山﨑ゆき（東京都）

207 心経を誦す唇に桜舞ふ
久本にい地（岡山県）

208 母の日の思ひで語る三姉妹
大久保アヤ子（東京都）

209 花菜風百一歳の父逝けり
竹澤茂子（大阪府）

210 夢の子は何も語らず明易し
勢川直美（大阪府）

211 雨上がりひと筋光る桜花
五十嵐勝敏（新潟県）

212 紅葉且つ散るまでは待て癌太郎
野原香雪（北海道）

213 春眠やはかなき夢と戯むれて
倉岡依世（東京都）

214 さくらさくさくらちる道ここまで
矢野絹枝（東京都）

215 雪富士へ菊一本や友人葬
寺岡文生（静岡県）

216 椅子の背に若草色の春ショール
木村真澄（埼玉県）

217 惜春や浜大輪の観覧車
石井美智子（埼玉県）

218 韓流の街さ迷へる遅日かな
大谷伊佐男（埼玉県）

219 花落ちて惜しむ路面に風の舞う
木下精（大阪府）

220 四月馬鹿診察室に杖忘れ
藤沢樹村（東京都）

221 あめんぼう着水点は句読点
羽根田明（神奈川県）

222 麗かやチンドン一座の昼餉時
小林七重（新潟県）

223 花筏渋滞してる神田川
小林紀美子（東京都）

224 しぼむときロケットなりしゴム風船
千代田栄次（東京都）

225 お土産はその笑顔かな遠足児
二本松よし子（群馬県）

226 草餅や野良着の似合う嫁となり
岡村君枝（茨城県）

227 遅咲きも佳しと見上げる桜かな
山岸伊久雄（東京都）

228 小さき花小さき手の中犬ふぐり
井田由利子（宮城県）

229 お遍路の急ぐ細道薄化粧
野中信夫（東京都）

230 手抜き無き笑顔で歌う「チューリップ」
村木友光（埼玉県）

231 放射能浴びるのおそれ燕来ぬ
杉村美保子（岩手県）

232 教会の屋根一面の花の曇
有田俊一（埼玉県）

233 山桜散って溶け込む雑木山
長峰さく（茨城県）

234 朝刊の週末わが記花万朶
有坂馨園（福島県）

235 春暁やインクの匂ふ新聞紙
中野勝子（鹿児島県）

236 格式を誇る旧家の君子蘭
山本吉夫（三重県）

237 雉鳴けりとさか真赤な雉鳴けり
津布久信雄（東京都）

238 ひらひらの髪の飾りや花帰り
岩永登茂子（大阪府）

239 トイレタンクの水滴で知る雪解水
有田裕子（北海道）

240 桜咲き小さき村を膨らます
湯浅芳郎（岡山県）

241 春嵐外は大荒れ内静か
山川幸子（東京都）

242 童心に戻る酸っぱさ木苺は
森川千英子（千葉県）

243 一滴の音にはじまる雪解川
重原昇（新潟県）

244 平穏な今が幸せ韮の花
大阿久雅子（東京都）

245 定命や地震に明け暮れ亀の鳴く
村上克哉（東京都）

246 雪握るにぎりつぶせぬ過去もある
辻升人（東京都）

247 罪障も消えなんばかり花吹雪
村松知津子（大阪府）

248 うから皆往ぬふる里や柳絮飛ぶ
濱崎登喜子（東京都）

249 花桐や今日も素通り郵便車
今井勝子（新潟県）

250 戦災と震災を経て八十の春
早山比奈子（埼玉県）

251 小判草びっしり殖えて富ならず
近藤美好（新潟県）

252 花愛でる母と窓辺に暫くは
川嶋法子（東京都）

253 残り鴨我が物顔に水輪引き
田野井一夫（栃木県）

254 名曲の余韻に酔ひて春の月
山下美絵子（埼玉県）

255 春の星やさしさばかり振り返る
大窪美代子（大阪府）

256 みちのくの旅情深めむ冷し酒
大曽根育代（埼玉県）

257 水滴のテンポ速める青時雨
齊藤安弘（神奈川県）

258 太閤の湯の町ぶらり花吹雪
中田文子（大阪府）

259 梅の香や名刹の坂這い上る
橋本まこと（栃木県）

260 木の芽山眼下に被災の海光る
小山たけし（埼玉県）

261 菖蒲湯に張りなき乳房浮かせけり
伊藤玉枝（北海道）

262 挙る掌の虚空をつかみ花辛夷
西川孝子（奈良県）

263 釈迦尼仏乾く間もなし花御堂
外賀喜咲（京都府）

264 村の灯や耕す音の朧なる
安藤まこと（岩手県）

265 ジャングルや父百才の旱星
黒岩正子（埼玉県）

266 道灌公の墓に降り頻く春落葉
堀井和（神奈川県）

267 田を返すトビわれさきにケラを喰ふ
北野耕兵（千葉県）

268 噛み合はぬ話に合はす桜かな
勝田久美（大阪府）

269 幼な子はいつも小走り若葉風
長島保子（東京都）

270 利根川の大空泳ぐ鯉のぼり
青木涼子（埼玉県）

271 うたた寝のおたまじゃくしの夢ひとつ
森ふく（千葉県）

272 終える人始める人と桜餅
中山日出子（大阪府）

273 退職者別れを惜しむ牡丹雪
藤田三四郎（群馬県）

274 先生に立ってなさいと葱坊主
中野豊彦（東京都）

275 春深し鯉の吐息に泡ひとつ
髙松ゆか（神奈川県）

276 ランドセル思い出つめて卒業す
高松愛（神奈川県）

277 堅香子の花むらさきをただ一途
磯部力（新潟県）

278 池の亀鳴くといふ子の片ぶくぼ
梶鴻風（北海道）

279 桜餅懐かしい味愛し母
五味田幸夫（栃木県）

280 菜の花のひょろり一本風の道
服部八重子（東京都）

281 粽解く笹摘む頃の妣の結ひ
菅井文男（新潟県）

282 つくづくしそれぞれ小さき影を置き
夏目満子（東京都）

283 佳句と駄句一字違ひや万愚節　本間七窪子（山形県）
284 芽柳のさみどりゆれる水辺かな　柴田恵美子（北海道）
285 大桜樹そぞろに吟ず十字の詩　佐々木トモ（宮城県）
286 香の高き白き花殖ゆ荷風の忌　松嶋光秋（東京都）
287 鮮かに鋤廉操る浅蜊舟　池本勇（大阪府）
288 失われゆく尊厳とは遠ざくら　池田岬（埼玉県）
289 津波後黙祷で始まる労働祭　鈴木与平（宮城県）
290 筍や他所の敷地に遠慮無く　石川郁子（埼玉県）
291 逆上り園児蹴あげる春の空　井上氣海（広島県）
292 メーデー歌頬を伝わる霧の粒　高杉杜詩花（北海道）
293 眠る子の頬に花びらつけしまま　秋谷静子（茨城県）
294 待ちわびし桜はすでに緑立つ　長谷部喜代子（大阪府）
295 何の声モリアオガエルと云う答え　湯浅夏以（神奈川県）
296 母の日に祖母の墓参に母とゆく　森﨑榮久（岡山県）
297 桜散る土手に軍馬の供養塔　三ツ木宗一（東京都）
298 住人（ひと）なくも日本の誇りと咲くさくら　木村舳（山形県）
299 一本松の子孫の芽吹三陸町　久世しずか（埼玉県）
300 ささくれの古看板や初鰹　星一子（神奈川県）

4月号の心に残った作品

「投稿作品で心に残ったものは?」の問いに、たくさんの回答をお寄せ頂きありがとうございました!その中で特に多くの評価を集めた作品と、それを選んだ理由の一部をご紹介します。

《大賞》

29 余生とはいつからかしら日脚伸ぶ　井原毬子（東京都）

井原毬子様

・余生が目にとまりました。うらやましい。磯山陽吉（東京都）・余生など私には無縁、毎日が一生懸命だと気づかせてくれます　北村純一（神奈川県）・私もそう思う　竹村和成（奈良県）・余生はいつからいうのか私もいつも考えている…いつからかしら…の口語体がやさしい　髙崎登喜子（東京都）・余生はいつからと考えてしまう　橋本まこと（栃木県）・夜の長さに一瞬余生を想う。そして安眠の世界へ　北野耕兵（千葉県）・実感として心に残りました　中山日出子（大阪府）・今年の寒さは格別気がつけばこんなにも日脚がと余生に結びつけたところがうまい　池本勇（大阪府）

【自句自解】

今、定年は延びて六十二歳位とか…それにしても私はとっくの昔定年過ぎの余生のはず！　ところが私ときたら五十五歳で自ら会社をやめ、六十歳過ぎてから俳句講師を始めたのです。当初は夢中で品川区民講座を皮切りに、東京都他依頼にはすべて応じて八教室位もありました。今七十歳過ぎて定年の無い講師の仕事。私の余生は一体いつからなのか？と弱音を吐いて詠んだ句です。笑って下さい。

《俳句》

4 嫁ぐ子と暫し語らふ日向ぼこ　小松政雄（長野県）

・私も娘が居ますのでうらやましい感じ　安部世衣子（埼玉県）・春の縁側でしょうか。少しだけで良い。嫁ぐ娘への愛情が豊かです　土屋喜雄（山梨県）・作者が男性（父親）なのがいい　山本直子（大阪府）・一読して円満で幸せそうなご家庭とお見受けしました　藤沢樹村（東京都）・親子の絆と温りを感じる　山本吉夫（三重県）・こういう日向ぼこもあるかと感心しました　津布久信雄（東京都）

《短歌》

232 福島の悲悲惨惨と過ぎゆきて「怒怒怒」「怒怒怒」と鼓動高鳴る　黒澤正行（福島県）

・私の詠みたいと思っていた短歌でした　今井忠一（東京都）・非・惨（おん）・怒という字で視覚に訴えつつさらに音で聴覚に訴えて、見事！強調するなら「」がない方が、さらに強調が生まれたと思う　稲垣恵子（埼玉県）・知人が苦労してます。　齋藤忠弘（千葉県）・悲・惨・怒・五感に響く三つの漢字でした。「合掌」あるのみです　阿部澄江（宮城県）・漢字ばかりのオノマトペとして成功。実感がこもっている　居原田連星（大阪府）・政府（歴代の）、電力会社、御用学者等に怒り、大いに共感!!篠原三郎（静岡県）・原発を、震災前の安全神話をいまだ信じているアジアに輸出しようとしているTVのニュースおそろし　大橋絵代（千葉県）・郷里が新潟に近い福島県ですので私の胸の内も同じ。原発廃止を叫びたい気持ち　菅井文男（新潟県）

《川柳》

252 身辺整理捨て切れぬ物溜めて老い　藤井北灯（福岡県）

・私自身の事の様　山﨑千春（新潟県）・最近妻も同様、二人して身辺整理をしています。考えてはもとに戻しています。整理は勇気、死ねば捨てられるものばかりです　増田信雄（埼玉県）・同感です　木村真澄（埼玉県）・私も同じで身辺整理が進まず押入れがいっぱいです　中嶋秀次郎（埼玉県）・まったく私もその通りだから　石山幸枝（新潟県）・八十路に入り同様昭和生まれは中々物を捨て切れず同じ心同感です　木村舳（山形県）

《他にも》

62 遠き日の母の声聞く雛の部屋　堀木和子（大阪府）

225 語りべのことばのごとく寄する波島の学舎（まなびや）閉校になる　寒川靖子（香川県）

244 悲しみは乗り越えるものではなくて何時かは忘れ消えて行くもの　吉野成行（愛知県）

297 神様の誤算責めてもいいですか　石山幸枝（新潟県）

300 孫が来て笑い袋の口あける　鏡たか子（山形県）

⚜ ⚜ ⚜ ⚜ ⚜

※今後もふるってご投稿をお願いいたします！尚、300を過ぎた作品を掲載できませんでしたことお詫び申し上げます。

前回のアンケート

Q.防災グッズとして備えているものはなんですか?

紙幅の関係上、すべてのお答えを掲載できませんことをお詫び申し上げます。

★経験上…

・大きめのリュックと水（なくて苦労しました）、パン、乾物、菓子缶詰類
眞木美知子（福島県）

・阪神淡路大震災を経験し、それ以降防災グッズは背負えるリュックに一連のものを用意している
浦橋渇雪（兵庫県）

・阪神大震災の時は、偶然だが、缶詰とペットボトルを置いてあったし、電池もあったし、カメラで自宅内外を撮ったりした　忍正志（兵庫県）

・水・ランプ・電池、昨年とても不自由したので…
音喜多千津子（埼玉県）

・昨年三・一一の経験から乾電池。一定の期間で買いかえている
安藤まこと（岩手県）

★水・食料

・水くらいかな　山﨑千春（新潟県）

・飲料水と軽食三日分程。ともかく不用であることが一番です
米山光郎（山梨県）

・のみもの、生水、缶ビール、焼酎、いずれも近くのコンビニで新しいのが買える　久保和友（滋賀県）

・水、食糧　小形さだ（東京都）

・水、ヤサイジュース、他食品
南喜美子（千葉県）

・とにかく水と缶詰・ラジオ・懐中電灯・ヘルメット・笛・カンパン・食べ物・飲み物は三日間位
福田和子（東京都）

・カンパン他　二瓶邦枝（埼玉県）

・水の入用性を感ずる
佐藤英雄（埼玉県）

・水とカンパン　北岡晃（兵庫県）

・ペットボトルの水
藤沢今日民（千葉県）

・日頃、ボトルの水を段ボール一箱、絶やさぬようにしています
布目雅之（埼玉県）

・非常食　上村元義（神奈川県）

・水ペットボトル一カートン、アルファ米50食セット（五目ご飯）
仁藤ひろじ（埼玉県）

・水・防災食糧　藤井碩子（山口県）

・飲み水（と私は思ってます。一番に）
千代田俳徒（東京都）

・水を定期的に買ってます
岩永登茂子（大阪府）

・缶詰・水・牛乳等です
小暮昭司（群馬県）

・水と食料品　高松愛（神奈川県）

・飲料水用タンク　菅井文男（新潟県）

・今迄実感として余りなかったが先ず、水、ラジオ、ローソク、懐中電灯、ビニール袋、新聞紙などを
池田岬（埼玉県）

・防災意識もなくペットボトル10本に水保管　鈴木章（新潟県）

・とりあえず飲料水の確保としてペットボトルを買いこみました
佐藤信（神奈川県）

★薬など

・消毒用アルコール、タオル等
大曽根育代（富士見市）

・薬類　伊藤玉枝（北海道）

・昨年はいろいろあったのですがだんだん少なくなり今は薬だけになりました　森ふく（千葉県）

・薬・水・ラジオ　服部八重子（東京都）

★灯りになるもの

・懐中電灯　道給一恵（埼玉県）

・家族全員の懐中電灯を準備しております　工藤昌見（山形県）

・寝る時は、手の届くところに必ず懐中電灯をおきます
若月理依子（新潟県）

・懐中電灯とキャンドル（それもクリスマス用の）程度です
小林七重（新潟県）

・ろうそく、懐中電灯だけはきっちりしています　大窪美代子（大阪府）

・ろうそく　服部秀次（東京都）

・ＬＥＤスーパーライト軽量は長時間持つ懐中電灯　単一電池４ケ位入
野木宗信（奈良県）

・ＬＥＤランプ　井上静夫（栃木県）

・ハンドランプ　桑原謙一（群馬県）

・ラジオ付懐中電灯
安部世衣子（埼玉県）

・ラジオ付ＬＥＤライト　電池不要
竹澤茂子（大阪府）

・ラジオ兼懐中電灯
夏目満子（東京都）

★ラジオ

・ラジオ（電池）　村山砂田男（新潟県）

・ダイナモ式ラジオ　竹村穏夫（大阪府）

・携帯ラジオ　山本直子（大阪府）

・小型ラジオ　松尾正一（岩手県）

・トランジスタラジオ位かな
木下精（大阪府）

・ラジオ　松嶋光秋（東京都）

★電池など

・携帯電池・充電器・寝袋等アウトドア用品　川嶋法子（東京都）

・電池　山東爺（北海道）

・ハンドル発電・電灯ラジオ他いろいろ、この節の世の中、不安がいっぱい
中西秀雄（東京都）

★貴重品の管理

・貴重品だけは枕元においています
高井逸代（岡山県）

・通帳、必需品を詰めこんだリュックサック　山岸伊久雄（東京都）

・年なので、健康保険証、預金通帳
野村牟人（東京都）

★携帯電話と…

・携帯電話、ガスコンロ、電池、缶づめ
鈴木義雄（福島県）

・携帯電話・携帯ラジオ、乾電池は一定の場所に置く。グッズかな?
田中豊恵（新潟県）

★履物

・何はともあれ〝使い古しの皮靴〟
酒井多ま恵（岩手県）

・地下足袋　佐野和彦（静岡県）

・特にありませんが履物はしっかりしたものを用意してます
篠原三郎（静岡県）

・長靴。風雨でも地震でも足元をしっかりと確保　諸橋文男（新潟県）

★ヘルメット・防空頭巾など

・ヘルメット　北野耕兵（千葉県）
・ヘルメット、リュックサックに薬、下着等　関忠恕（静岡県）
・ヘルメット、羽毛寝袋、水、食料少々、懐中電灯他　秋谷静子（茨城県）
・ヘルメットと小型ラジオ　福岡悟（東京都）
・ヘルメットと保存食、ペットボトルの水　齋藤忠弘（千葉県）
・特に無いが強いて言えばヘルメット　濵田イサオ（福岡県）
・備えて居るものに限りが有りますがサバイバルとしてヘルメット、バール、単1単3の電池を揃えて居ります　吉野成行（愛知県）
・枕元にヘルメット。防犯ベル。小型ラジオ。ボトルに飲料水。食料チョコレート。飴　宇田川正雄（埼玉県）
・防空頭巾　岸上展（東京都）
・防災頭巾（戦時中の物を参考にして）　萬濃その子（神奈川県）

★笛

・笛　閉じ込められても存在を知らせたいので　早乙女文子（埼玉県）
・笛、トイレットペーパー、水と米　小笠原紗恵子（神奈川県）
・笛、電灯（携帯用）など　野中信夫（東京都）

★消火器など

・家庭用消火器・ローソク他　松田義登（福岡県）
・消火器　飲料水　星野三興（新潟県）

★自分なりのセット

・防災グッズ一式を備えております　佐々木都（長野県）
・非常手廻し電池ラジオ・ヘルメット・携帯寝袋・テント・天然水ポリ入れ　須澤重雄（長野県）
・水・食料・防寒具他携帯トイレ、水・電気がないときの必需品です　長峰正晴（千葉県）
・乾パン・ビニールシート・バケツ・スリッパ・靴・ラジオ　藤原昭三（滋賀県）
・くすり、衣のかえ、食品などの他に背骨骨折のあとの杖と携帯電話…etc　高須孝（愛知県）
・電池、ヘルメット、木刀、ケイタイ、ペン、ノート、ビスケット　大江秋月（兵庫県）
・水、インスタント麺、懐中ライト、ウォークマン、カセットフー　西條公雄（埼玉県）
・懐中電灯・時計（?）・水・メガネ　安木沢修風（新潟県）
・懐中電燈、乾パン、下着タオル、ティッシュ、軍手、ゴミ袋、紙食器、その他　杉原明子（静岡県）
・食料を中心に一通り。食品類は賞味期限耐用年数あり、注意している　岩村昇（神奈川県）
・防寒アルミシート・手廻しの充電ラジオライト　安達由美子（北海道）
・家具、本棚等の転倒防止器具。「主な備蓄非常持ち出しチェックリスト」による物品　神田九十九（東京都）
・①ラジオ②水③防災食④携帯トイレ⑤靴⑥タオル（大）⑦ビニール袋　内河邦久（東京都）
・水・ライト・食糧品・ストーブ他すべてのもの備えています　田島星景子（宮城県）
・水・雨具・食べもの・靴・懐中電灯など　柚山美峯（東京都）
・ラジオ・懐中電灯・カンパンなど保存食・スリッパ・下着類・ティッシュ。　大橋恒次（新潟県）
・三家族同居故一般的な品以外に当座生活できる物品を備えています　岡村和郎（静岡県）
・飲料水ボトル、かんづめ食品、お菓子、肌着、補聴器の電池、使い捨てカイロ、懐中電灯、現金（硬貨も）ビニール袋、ホイッスル　堀木和子（大阪府）
・懐中電灯に始って一式準備　前川和市（兵庫県）
・肌着、靴下、手袋、乾パン、水、ラジオ　百花清（埼玉県）
・収納リュック・ラジオ・手動充電ライト・救急セット・マスク・タオルと軍手・保存水その他　鈴木みえ（長野県）
・寝袋・ラジオ・スポンジ・座布団・ライト・充電器・乾電池・ローソク　吉村充治（埼玉県）
・水、いろいろな紙類、タオル等　橋本良子（埼玉県）
・七日分の水・食糧・寝袋・衣服（お金・印鑑・証書類・戸籍一通・予備薬・救急品）　青木日出男（群馬県）
・ひととおり。と思うが要点検　野原香雪（北海道）
・小型ラジオ・水（熱心に備えること考えている所）天災は忘れた頃にやってくる　増田信雄（埼玉県）
・常備燈・トランジスタラジオ・ホカロン　阿部徳夫（宮城県）
・懐中電灯・携帯ラジオ・飲料水・非常食・健康保険証のコピー　岡村君枝（茨城県）
・ラジオ・電池・懐中電灯・水・反射式ストーブ・灯油・上着・食物　杉村美保子（岩手県）
・防災トイレ、水、ビスケット類他食品、水のいらないシャンプー、体ふき用紙　山川幸子（東京都）
・水・乾パン・懐中電灯・寝袋・手袋・手帳・ボールペン等　小山たけし（埼玉県）
・ラジオ・飲料水・工具類・トイレットペーパー・カセットコンロ　中嶋秀次郎（埼玉県）
・防災グッズの基準に基づき準備しています。緊急の場合、常備薬を忘れないようにしなければと考えています　邑橋節夫（兵庫県）

★持ち出し袋にして準備

・いざというときに何もかも入れられる大きな袋を自分で縫って持っています　楠瀬美香（高知県）
・食料・水・救急薬品・ラジオ・簡易トイレ等をリュックに入れてあります　藤沢健二（千葉県）
・防災グッズといわれているものすべてリュックにつめています　井原毬子（東京都）
・懐中電灯、ラジオ、かんぱん、スリッパ等リュックに入れてすぐ持ちだせるように　水落重弐（新潟県）
・専用のリュックに家族みんなの血液型のカードを入れています　美濃部紘三（新潟県）

A QUESTIONNAIRE

・枕元に妻の心得リュックサック
磯山陽吉（東京都）
・リュックサックに一式入ったグッズ求めました。ティッシュ、おとまり、等入れ、すぐ持ち出せるところに置いています　山田幸代（兵庫県）
・カンパンなどリュックに詰めたり乾電池など絶えず枕元においています
堀田寿美子（北海道）
・非常持出し袋。中味は→水、乾パン、医薬品、懐中電灯、簡易トイレなどのセット　佐藤加代子（東京都）
・非常持出し袋（中味満杯、ラジオ、衣類など多数）　今井岩夫（千葉県）
・もう何年か前に一通り必要と思う物を求めてリュックに入れてあります
大岩歌子（岡山県）
・水及び食料、着替え等を入れた大き目のリュック　勢川直美（大阪府）
・非常持出し用リュックサック
山本吉夫（三重県）
・リュックサック二つに「火、食、電池、重要書類・水」必要なものをいれてる　濱崎祥子（鹿児島県）
・携帯ラジオ（懐中電灯付）その他一応グッズを詰めたリュックサック（耐熱性のもの）
濱崎登喜子（東京都）
・防災袋に電灯つき携帯ラジオと音楽テープを、水と乾パンは納戸に
齊藤安弘（神奈川県）
・リュックの中にひと通りの生活必需品を入れて準備しています。特に飲食品類　後藤美佐子（長崎県）
・これまでの震災等を参考に色々すぐに持ち出せる様にしてます
稲葉民雄（千葉県）

★車内に準備
・車の中にヘルメット、ケイタイ電話充電コード、懐中電灯、車の牽引ワイヤー、ロープ、小毛布、飴玉など
石原岳（群馬県）
・自家用車に小備品格納ケース
有坂馨園（福島県）

★心
・心がまえ　神作洸江（埼玉県）
・特にありません。しかし心の準備だけはしているつもりです
高橋トミ子（山形県）
・用具は備えて居ませんが何よりも日頃の用心を心がけて居ます
近藤はつみ（福岡県）

★その他
・酒缶１００本（菊水）
渡辺茫子（千葉県）
・犬が三匹おりますので「ドッグフード」　関根千恵（埼玉県）
・「無手勝流グッズ」「合理的な脱出グッズ」…なんてダメですね
松田重信（埼玉県）
・灯油と飲料水タンク
土谷敏雄（秋田県）
・市販の防災グッズはもちろん家族との連絡をとれることが一番ですね
中村和弘（愛知県）
・キャンプ用飲食設備一式、テントなど　長野光康（神奈川県）
・「携帯式トイレ」でも使わずに済んでます　羽根田明（神奈川県）
・厚手のロングコートを一年中手元に置いています。防寒ばかりでなく敷物として利用できるのではないかと
森川千英子（千葉県）

新潟ぶらり

新潟県政記念館

「本は人の心を封じた器」とは作家石田衣良の言。確かに、物言わずとも本からはエネルギーが発せられている。著者の、編集者の、装丁者の――本づくりに携わった人たちの想いが、自然と伝わるものなのだろう。建築物、特に、うつくしいと思える建築物や、多くの人に親しまれ大切にされている建築物も、同じように作り手の想いをしっかりと伝えるものだ。

新潟県政記念館は、一八八三（明治一六）年に新潟県会議事堂としてつくられた。文明開化期の代表的擬洋風建築で、明治の府県会開設期における現存する唯一の議事堂として国の重要文化財に指定されている。擬洋風建築は、日本の大工たちが先進地の洋風建築の見聞や技術体験をもとに、伝統技術と外来の様式・技術を折衷させた苦心の結晶といわれる。白い漆喰壁、建物の角をふちどる隅石、屋上に設けられた八角形の尖塔等が目を引く当館も、西洋の建築知識が乏しいなか、しかも中央から遠く離れた新潟にありながら、関係者一同が精いっぱいの努力を傾注して西洋風につくり上げたものだ。設計・監督は、新橋駅舎や大阪駅舎も手掛けた、新潟出身の建築家・星野総四郎。注目をあつめる尖塔は、工事中に設計を変更して増築したというから、その懸命さがしのばれる。

左右対称の切妻屋根を見上げつつ中に入る。照明を支える天井部分の彫刻等、内部もそこかしこに意匠が凝らされており、説明書きを読むたびほほうと感心してしまう。議場内部は吹き抜けで広々。二階には傍聴席のギャラリーもある（ただし、手すりが低いので高所恐怖症の方は傍聴どころではないと思われた）。実際に議席に座ることも許されており、にわか議員気分が楽しめる。また、英国製の水濾器、議員が使っていた陶製のお弁当箱、信濃川を背景に立っていた当時の写真等々、展示物も思わずじっくりみたくなるものがあり時間を忘れる。

最後に写真を撮ろうと外に出た。緑のなかにあるのが一番「映える」と思っていたので、建物の裏側になってしまうけれど隣の庭園に移って撮影。――さすが、後ろ姿も抜かりなくうつくしいものだった。（菅真理子）

■新潟県政記念館
住／〒951-8132
新潟市中央区一番堀通町 3-3
TEL／025-228-3607

●お客様の『リレーエッセイ』

奈良・九つの桜名所を巡るツアーに参加して

村上澄子
（千葉県・成田市）

二月半ばごろになると春色に染まる桜旅特集という総合カタログが、つぎつぎに送られてきた。ページをめくると、奈良・吉野千本桜の満開の景色が画面一杯にうつしだされている。偶然にも吉野だったら行ってもいいわよ、というひと声で決行となった。

四月十三日（金）東京駅・午前九時集合、新幹線のぞみに乗り出発。名古屋駅より観光バスに乗り換え、高円寺ドライブウェイを走り、奈良公園に着き、自由時間。まず、奈良に来たのだから東大寺の大仏様を参拝しましょう、ということで大仏さんに旅の安全を願い、拝顔する。広大な境内の桜が見事に咲き満ち、今まで来た中で一番素晴しいと思った。

次にめざすのは、興福寺の阿修羅像。数年前に上野で展示されたときは、待ち時間が長くあきらめたので拝見したいと思っていた。国宝館が平成二十二年にリニューアルされ、国宝四十五点、重要文化財十九点が一堂に公開されている。LEDの普及のおかげで、側近くに阿修羅像をはじめ八部衆や十大弟子像、躍動感あふれる鎌倉彫刻など見られ、さすが奈良に来たと実感。特に、阿修羅像の唇をかみしめている表情、己れを反省している表情など、じっくり鑑賞することができた。

夕食後、あいにくの小雨ふるなか、郡山城跡の夜桜見学に参加。このお城は天守閣なき城として紹介され、お濠沿いの小路をぼんぼりのあかりを頼りに城門まで行き、闇に浮かぶ桜を写して、第一日目が終わる。

第二日目は待望の、あの西行や芭蕉が愛した花の吉野山へ。

願はくは花の下にて春死なむ
そのきさらぎの望月のころ

桜の種類は二〇〇種、約三万本の桜が、四月初旬に下千本（吉野駅付近）から咲き始め、中千本（如意輪寺付近）、上千本（吉野水分神社付近）、奥千本（西行庵一帯）へと、山肌を這い上がるように広がり、約一か月間尾根から急峻な山あいを埋め尽くすという。

三時間の自由時間が与えられ、道なりに歩き始めると、早速に満開の桜が遠近に見えはじめる。道のならびにはお土産屋さんが軒をつらね、三十～四十分登ったところには金峯山寺（きんぶせんじ）・蔵王堂（中千本）。中には、本尊の蔵王権現の忿怒（ふんぬ）の相の青像三体が大きく鎮座している。吉野山は修験道の聖地で、今でもその名残をとどめている。土産屋さんのすすめる草餅やわらびもちに疲れを癒す。上に上に登りながら、古いお寺に入り、桜を見たり写真を撮ったりしていると、あっという間に時間がたってしまう。

午後から大宇陀の又兵衛桜へ。一本桜と桃の花が見事に競演していた。次に長谷寺に行く。ここは牡丹の花で有名なところ。咲き誇るさくらの見事さの中に白木蓮の満開の美しさを見られたのは感動的で、枝先にふっくらした白い小鳥がとまっているように見える。

次に安倍文殊院に行く。ここは、平安時代には大陰陽師として有名な安倍清明の出生の地であり「魔除け・災難除け祈祷の寺」として信仰されている。山門を入って右手に文殊池があり、立派な六角形の金閣浮御堂の水面には桜の花びらが沢山浮かんでいた。本堂にて法話があり、お薄をいただき無事に二日目が終わる。

第三日目は、飛鳥の石舞台古墳の巨石と桜観賞である。石舞台には私なりのイメージを持って期待していたが、美術誌に掲載されていたほど神秘的ではなかった。

次に女人高野の室生寺である。前回きたときは奥の院まで登れなかったので、今回はぜひ目的を達成したいと一歩踏み出してみるが、私たちよりも年輩の人や体の不自由な方がいらして弱音ははけないと思った。奥の院につきお影堂に参拝し、新緑の風や鳥のさえずりにやすらぎ、ひとときを過ごし下山する。あらためて本堂の十一面観音、五重塔を拝す。山門を出て記念の写真を撮る。

いよいよ最後となる大野寺に。本堂のしだれ桜よりも対岸にそそり立つ断崖の「弥勒磨崖仏」に魅せられる。総高十三・八メートルの弥勒菩薩立像。日本最大級で、鎌倉時代に後鳥羽上皇の勅願で刻まれたという。磨崖仏の前を宇田川の清流がおもむきを添え、大変すばらしいと思った。

毎日が登山のような感じだったが、京都と違った魅力を十分にあじわうことができ、やはり参加してよかったと思う。添乗員さんから、みなさんは今回のツアーの中で一番花の良い時に参加されました、とのお話がありました。

滋味しみじみ◎◎◎

四十七士のぎょうざ

紺谷睡花様（東京都・東久留米市）

調理師免許を取得した四十七歳の時、スーパーの惣菜売場で、ひじきやきんぴらの煮物など一手に担当していた。その後、女子寮や産院の賄いなど、十八年余調理に関わってきた。

産院では、献立や食材の調達は院長夫人がされて、多い時は家族の分も含め十四人分にもなった。簡単な魚は捌き、沢庵も漬け、ハンバーグはもとより卵豆腐も手作りした。

ある時の夕食は「ぎょうざ」。一人七個、合計八十四個の大半を、腕の未熟さで失敗した。良い物を患者さんに出し、家族の分は「すみません、四十七士になってしまいました」とお詫び。つまり皮が破れ切腹状態ということで、院長夫人はお叱りもなく苦笑い。以来「ぎょうざ」はちょっと苦手。一人暮しの今は、一汁一菜のつつましい食生活で、愛用の包丁もすっかりすり減って来し方が偲ばれる。

キャベツ刻むわが生業（なりわい）の昨日今日
ひとの為握る包丁秋暑し　　— 睡花 —

第11回　方代の里なかみち短歌大会

平成24年3月10日、甲府市健康の杜センターアネシスにて関係者約150名が参加して「第11回方代の里なかみち短歌大会」が開催されました。

主催者の甲府市教育長は「この度は東日本大震災の短歌が多く応募され、人々の心に癒しをもたらせたと思います。短歌を通して心を通わせ、交流を深めていただき、文化活動の原動力としてほしい」と述べられました。応募作品は、一般の部、944首（489名）、ジュニアの部・高校生225首（同名）、中学生1614首（同名）、小学生303首（同名）。

受賞式の後、選者の適切な講評があり、第二部では、大下一真氏と三枝浩樹氏の対談がありました。方代短歌を大切にしながら、わかりやすい、親しみやすい短歌づくりに精進されるよう激励し、約三時間にわたる大会は、終始、感動の熱気に包まれていました。（甲府市文化協会文責）

2012年　喜怒哀楽書房の本づくり

当社では、ご自分の生きた証を残したいという想いを「自費出版」としてサポートしています。一口に「自費出版」といっても多種多様です。弊社がお手伝いできる主なことを、4回にわたるキャンペーンでお伝えしていきます。第一回目は①句集・歌集キャンペーン。同封のチラシをぜひご覧ください。

●次回以降　**②合同句集・歌集キャンペーン　③結社手帖キャンペーン　④文芸誌・結社誌キャンペーン**

ポストカード好評発売中！

毎回ご好評をいただいている当社のオリジナルポストカード（1組8枚入り500円×各シーズン）。今回は夏バージョンより「ラベンダー」を同封させていただきました。お気に召されましたら、同封のアンケート用紙にご希望の季節、セット数を明記のうえ、**必要金額分の切手と一緒に封書にてお申し込みください。**

「ご縁ブック2012」「2013年手帖」のご注文用紙を同封しました！

「2013年手帖」の表紙の色・絵柄は、装いも新たに「水色」の「めでたづくし」模様です。なお、今回より「手帖」の作品募集はなくなりました。「ご縁ブック2012」に、ご投稿いただけますようお願いいたします。ご注文の締切は**7月31日（火）**です。お忘れなきよう!!

スタッフの一言

Q. 防災グッズとして備えているものはなんですか？

木戸　敦子

景品で当たった非常用リュック。それがあるという安心感で何が入っているのか持ち人知らず。明日をもわからぬ身、携行しているのは何かのために生き抜くぞ！という心意気。つまり愛だな愛♡

古川久美子

用意しているものは特には……。
でも、いつも通勤に使っているカバンの中には、某イベント時に使用していた小さなライトが……。

菅　真理子

ベッドサイドにリュックを準備！いろいろ入れていますが、なかでも重要なのが眼鏡。あまり借りられるものでもないし、なにしろかなりの近眼なので、眼鏡が無かったら…と想像すると怖すぎる。

山田　千秋

報道で災害を見る度に用意しておかなくちゃ！と思い続けています。でも真っ先に連れて出ようと思うのは、弱者の愛犬です。

上村真智子

なにも用意していない…「潔くあちらの世界へ逝く」と言いたいが、物置にあるアウトドアグッズは意識している。そして次世代を生きる子供の部屋のタンスは固定した！

金子ゆり子

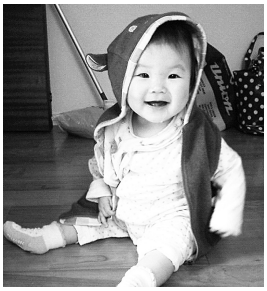
車を常に使っているので、水・着替え・マッチ・ティッシュ・タオル・電燈・乾電池・紙袋etc、家の中よりも多くの物が入っています。準備よすぎ!?

石山由希子

「逃げるなら〈あかしあ公園〉ね」と、家族で避難場所は確認済みです。「部屋にいたならタンスからは逃げた方がいいよ」「で、何を持っていくん?」「……」「それから?」準備はこれからやります。

吉田　瞳

地震に強い鉄骨の家という売りで建てた我が家！なので家にいれば大丈夫?安心はしていられないと思う今日この頃。準備はこれからやります（汗）



9ヶ月になりまちた。
わたちをわしゅれないでね!!

詠み人の『リレーエッセイ』

悲しみはとどまれ、怒りはうたえ

佐藤弓生

惜しむべく佐藤様のエッセイも今回が最終回。短歌の持つ多面性を、喜・怒・哀・楽にまつわる短歌を交えて魅せていただきました。次回からは、本職の傍ら今年から角川「短歌」、「小説すばる」にて連載を開始された歌人にご登場いただきます。引き続きお楽しみに！

●プロフィール
1964年、金沢生まれ。歌人集団「かばんの会」会員。歌集『世界が海におおわれるまで』『眼鏡屋は夕ぐれのため』『薄い街』のほか、詩集、訳書等がある。近現代短歌を引用した超短編集『うたう百物語 strange short songs』を今夏刊行予定。

気分が悪いとき、「吐きたいのに吐けない」というようなことがときどき言われます。それは生理的苦痛ですが、なぜいま思い出したかというと、「泣きたいのに泣けない」心理の苦しさを、ふと考えたからです。悲哀のただなかにいる人には、起きうることでしょう。

おつとせい氷に眠るさいはひを我も今知るおもしろきかな　山川登美子

ほんとうにおれのもんかよ冷蔵庫の卵置き場に落ちる涙は　穂村　弘

どちらも、どこか屈折した歌です。「氷に眠る」ことが「さいはひ」というのは普通ではなく、そこには皮肉か諦めの心が感じられます。すると「おもしろき」も、その裏に「かなしき」心をともなっていると言えそうです。

二首目の人物は、たしかに泣いてはいます。けれども涙の落ちる場所がやはり普通ではないし（涙が魚類などの卵を連想させるのが読みどころですが）、そもそも、悲しみそのものの行方を見失ってしまっているようです。

興味深いのは、どちらの歌も低温環境という背景が、ある種の静寂を導いていること。悲しみは、あるひとところに声なくとどまってこそ、際立つということでしょう。

一方、悲しみと同じく負の感情とされる怒りは多くの場合、声を上げることと同義という点で、対照的です。

しずめかねし瞋（いか）りを祀る斎庭（ゆにわ）あらばゆきて撫でんか獅子のたてがみ　馬場あき子

さみだれにみだるるみどり原子力発電所は首都の中心に置け　塚本　邦雄

「怒」ならぬ「瞋」。かっこいい（私の第一印象）。もちろんこの字は恰好で選ばれたわけではなく、人間には制御できないほどの超人的・鬼神的な怒りをあらわすものですが、そうした強い感情を祀る聖域があるなら、そこでひとりの人間として、怒りの化身である獅子に寄り添おうと告げています。その果敢さ、やっぱりかっこいい……。

後者は福島原発事故後しばしば引用された歌ですが、出典は一九九三年刊の歌集『魔王』で、内容の先見性も話題になりました。ここでは結句の「置け」に注目してみます。この命令形の意図は、押しつけではありません。原発利権者の身勝手、および都市部電力需要者の無自覚を告発する、怒りの表現と受けとることができます。

かつて政体移行にせよ文学革命にせよ、なにかの歴史を変えてきた原動力は、人々の違和感そして怒りでした。怒りは、道を逸れなければ創造の源となりうる感情であることを、大きな視点から認識させてくれる一首です。

2012. 6. vol.62 （2012年6月10日発行／隔月発行）
●発行・印刷／株式会社ミューズ・コーポレーション
喜怒哀楽書房 株式会社ミューズ・コーポレーション
〒950-0801 新潟市東区津島屋7-17
TEL 025-250-9555 FAX 025-250-9550
0120-819-395
e-mail odp@eseihon.com ／ HP http://www.eseihon.com

編集後記

風薫る5月を終え暑い夏への序章6月が始まった。ある行き違いから友人と諍いがあった。5月の連休前後のお互いに余裕がなかった時期。謝りたいと言ったが「もういい」ときた。ならこっちだっていいよ、と思うがおもしろくない。怒りは悲しみの裏返し。あの人ならわかってくれると思っていたのに…という互いの気持ち。ダメならダメで結構。でもその前に本当の気持ちだけは伝えようと一筆したためた…のが一昨日。さていかに。そして本当の気持ちを伝えられない筆頭家老が身近にいる。反省！でも反省だけなら猿でもできる。はい、猿以下です。涼やかな6月を！ （木戸敦子）